



タマディック名古屋ビル

国内でも自然災害が多発する。  
坂氏は、建築の能力や知識が限られた一部の人に向けて使われて  
いる現状に疑問を抱くようになつたという。そうした状況に抗うよ  
うに、建築を社会へ開く活動を始  
めた。ルワンダの内戦を逃れた難民  
キャンプの劣悪な環境を知り、国連  
難民高等弁務官事務所(UNHCR)  
ジャニーブ本部をアポなしで訪  
ね、紙管を用いたシェルターを提案  
した。提案はUNHCRの難民支援  
につながり、周辺国の難民キャンプ  
で、緊急シェルター供給として実用  
化された。



日建連の  
YouTubeチャンネルは  
こちら

対談の様子は、日建連のYOUTUBEチャンネルで公開している。

くくつた。

築を観ることだと述べ、講演を締め

た。

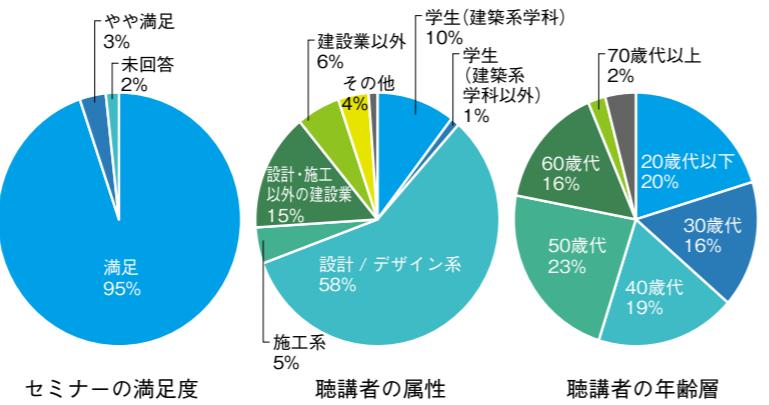
役割も担つてい  
る。災害地のよ  
うに資材調達が

難しい状況での  
支援活動で培わ  
れた姿勢が、作

品づくりにも表  
れている。

力と、機会を捉  
えてかたちにす  
る実行力がいく

## セミナー終了後のアンケート結果



アンケートコメント（抜粋）	
設計する身として大切なことを考えなおす機会	となりました（20歳代・設計）
坂さんのジョークを交えたお話を楽しみながら	聞くことができた。高校生の私も理解ができる わかりやすい説明でとても勉強になった (20歳代・学生)
プリツカー賞を受賞された大建築家でありながら	社会貢献活動にも尽力されていることに感銘した。学生と一緒に活動されてることも教育の観点から素晴らしいと思った。(60歳代・団体)
坂氏の多様な取組みが理解できた。現地を大切にして、現地調査可能な材料をアイデアで実現できる実行力に感心した。(60歳代・設計)	

# 日建連建築セミナー開催報告 作品づくりと社会貢献の両立を目指して

日建連は、日建連建築宣言に示された基本方針の一つである「世界に誇れる未来の建築文化の創造」に向けた活動の一環として、毎年、建築セミナーを開催している。セミナーでは、活躍中の建築家を講師に招き、会員企業に加え、建築を学ぶ学生や設計業務に携わる若手を対象に、講演及び対談を行っている。

今年度は坂茂氏を講師に迎え、「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」をテーマとして、二〇二五年十月十五日、東京証券会館八階ホールで開催した。坂氏は、下瀬美術館（竣工二〇二三年、日建連表彰二〇二五第六回BCS賞受賞）やタマディック名古屋ビル（竣工二〇二一年、日建連表彰二〇二五第六回BCS賞受賞）などを手掛けている。セミナー参加の事前申し込みには定員を大幅に上回る応募があり、同氏の活動に対する関心の高さが

うかがえた。会場には学生や社会人を含む幅広い層が参加し、アンケートでは約九八%が「満足」「やや満足」と回答した。

## 社会貢献としての建築実践

坂氏は、建築の能力や知識が限られた一部の人に向けて使われている現状に疑問を抱くようになつたという。そうした状況に抗うよう、建築を社会へ開く活動を始めた。ルワンダの内戦を逃れた難民キャンプの劣悪な環境を知り、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)ジャニーブ本部をアポなしで訪ね、紙管を用いたシェルターを提案した。提案はUNHCRの難民支援につながり、周辺国の難民キャンプで、緊急シェルター供給として実用化された。

国内でも自然災害が多発する。



坂茂氏の講演の様子(投影写真3点、撮影:平井広行)